



Title	癌と人 第40号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 2013, 40
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24898
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

第40号 目 次

◎題字◎

公益財団法人 大阪癌研究会
元理事長 千代賢治



*表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関する学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本でいう癌をカルチノマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

ごあいさつ	1
田口 鐵男	
感染症とがん	2
田口 鐵男	
戦場のキュリー夫人	4
小塙 隆弘	
微量放射線の発がんリスク ～1ミリシーベルト以下にする除染は必要か～	7
中村 仁信	
「正しい判断」と「正しいと確信する判断」	10
小川 道雄	
サイレントキラー	13
高見 元敵	
多様化する看取り 一緩和ケアを通して見えてくるもの	16
松永 美佳子	
がんの自然治癒	21
岩永 剛	
がんから分泌される乳酸による 炎症誘導の分子メカニズムの解明	26
井上 徳光	
EMTによる新規がん－正常上皮細胞間 コミュニケーションを介した、 がん悪化促進作用に関する研究	27
齋藤 正夫	
肺癌におけるテトラスパニンの 機能解析と治療応用	29
武田 吉人	
イレッサの新規標的GAK阻害による 間質性肺炎誘導機序の解析	30
内藤 陽子	
炎症性腸疾患関連大腸癌における サイトメガロウイルス感染の関与	32
仲瀬 裕志	
神經幹細胞特異的DNAメチル化 制御破綻マウスを用いた グリオーマ発症の分子基盤解明	33
波平 昌一	
Mob1遺伝子による発生や 発癌の制御機構	35
西尾 美希	
エピゲノム異常に基づいた 肝発癌予測システムの開発	36
西田 直生志	
Super-SCIDマウスを用いたヒト前立腺がんの 治療効果と安全性評価システムの確立	38
野村 大成	
膵癌の浸潤過程に関する遺伝子群の 同定と分子標的治療への展開	39
廣野 誠子	
微小管作動抗がん剤の 副作用予測診断法の開発	40
松浦 伸也	
癌の浸潤、転移を制御する CXCR4シグナル経路の解析	41
八木 裕史	
・平成23年度事業報告	43
・平成23年度収支計算書等	46
・平成24年度寄付者ご芳名	52
・平成25年度事業計画書	53
・平成25年度収支予算書	54
・公益財団法人大阪癌研究会役員名簿	56
・公益財団法人大阪癌研究会定款	57